

校内研修計画

八幡小学校

1, 学校課題

八幡小学校は果樹園と緑に囲まれ、豊かな自然環境の中に位置している。昔から本地区に住んでいる家庭が多く、学校教育への地域の理解と関心は高い。また、家庭での児童の生活は比較的安定しており、“家庭が楽しい”と感じている児童が大多数で、睡眠時間や食事など生活習慣面での課題も少ない。

学校生活に関しても、ほとんどの児童が“楽しい”と感じており、明るく素直に活動している様子がみられる。単学級のため、友だち関係が固定化している面もあるが、そのぶん休み時間など学年を越えた交流が多く見られる。本校では、校内研究において「命の大切さを学ぶ体験活動を通して、豊かな心を育む」ことを主題として、体験を通して豊かな人間関係を築いたり、生命の大切さを学んだりすることの実践を重ねてきた経過がある。多くの児童が、“仲のよい友だちがいる”、“いじめのない楽しいクラス”であると感じており、“正しく生きることについて考え、思いやりの心を持って生活している”と自己評価している児童の割合も高い。ただ、少数ではあるが“そう思わない”という児童がいることは課題であり、思いやりの心・命の大切さを感じさせることは、学校教育全体で継続して取り組んでいかなければならない。

学習に関しては、自身の“理解の状況や学習態度”について十分でないと感じている児童も少数いるが、全体的には、興味・関心をもって進んで取り組もうとする児童が多いといえる。全国学力学習状況調査やつまずき診断検査から、読解力、特に論理的な文章を読み解く力や説明する力が不足していることがわかった。一昨年度からの読書習慣の形成をはかる取り組みはある程度の成果を見せており、読書量ではかなりの伸びが見られたが、家庭も巻き込んだ読書活動や新聞や読書ノートの活用など、量だけでなく内容や活用の仕方においても充実を図ることが必要であると考え。また、全国的な傾向と同様に、遊びや家庭生活の変化から、自然体験・社会体験など子どもの学びを支える直接体験が不足しがちになっていることは、本地域の児童においても感じられることである。さらに、今日的教育課題であり、両検査結果から見える本校児童の課題にも通じる「思考力・判断力・表現力」の育成についても十分とはいえない児童の実態から、今後も、体験に基づいた知識・技能の習得や、習得した知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現していく活動の継続が必要であると考え。

めざす子ども像

自他を思いやり、生命を大切にす気持ちをもつとともに、友だちと関わり合いながら、協調して活動することができる子ども（豊かな人間性や社会性）

学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども（確かな学力）

進んで体力づくりに取り組み、心身ともに健康な子ども（健康・体力）

がんばっている自分に誇りの持てる子ども（自尊感情）

2 研究主題

「生きる力を支える確かな学力を育むための指導の工夫
- 体験的な学習の充実を通して - 」

3 主題設定の理由

本校では、生きる力を知の側面からとらえた「確かな学力」に視点をあてた本主題を設定して3年目を迎える。研究スタート時、その前年度までの生きる力を徳の面からとらえた「生きる力を支える豊かな心を育むための指導の工夫」の継続研究により、「体験活動」が学習のねらいを達成するための意義ある活動として仕組まれたとき、児童の意欲は高まり、実感を伴って深い学びになることが確認できたことから、豊かな心につながる「体験活動」と同様に「体験的な学習」が確かな学力の定着にも有効ではないかと考えたからであった。さらに、新学習指導要領においても、自然体験や生活体験など子どもたちの学びを支える体験活動の重要性がうたわれており、本来、生きる力の基盤となる「確かな学力」は生活体験と切り離せないものであると考えたからであった。

今、めまぐるしく変化する現代社会に対応する能力の育成として、また、生涯にわたる学習の基礎を培うため、知識・技能の習得とそれらを活用した課題解決のための思考力・判断力・表現力、そして学習意欲・学習習慣という「確かな学力」の定着が、子どもたちに求められている。昨年度までの2年間の研究において、本校の「めざす子ども像」における2番目の『学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども』に視点を置き、体験的な学習の充実を「明確な活動のめあて」「問題・課題解決的な学習過程への設定」「学び合いの中での展開」「言語活動との統合」をポイントとして研究・実践を深めてきた。また、昨年度は、その授業づくりの要素・基盤として、学習規律や学習習慣の形成に向けた学習環境づくりの取り組みもスタートさせた。

実践の中で、体験を通して学ぶ、学んだことを体験に生かす学習活動は、児童の意欲を高め知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力の育成にも効果が期待できるという成果は見られたが、同時にその位置づけや展開のさせ方については一層の焦点化が必要であるという課題も確認できた。また、同様に学習環

境づくりにおいても、発達段階に応じて系統化された学習規律、家庭学習の習慣化、読書活動の充実など継続した取り組みにより、一層の基盤づくりを進める必要がある。本校児童においては、素直で真面目に学習するが、主体的に課題解決し豊かに表現することができる児童は少ないという実態があり、学校課題に挙げた論理的な文章を読み解く力や説明する力の不足という課題もある。このような資質や能力の育成のために、特に「学び合い」や「言語活動」との統合により体験的な学習を充実させ、有効に機能させていくことを継続していく必要を感じる。また、体験的な学習により、主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を体得させることは、本校のめざす子ども像「がんばった自分に誇りを持てる子ども」にも通じるものであると考える。昨年度の研究成果と課題から、活動のねらいを明確にし、体験的な学習を知識・技能の習得場面、あるいは知識・技能の活用場面に取り入れ、友だちとの「学び合い」や言語活動との統合などより焦点化した方途を考えながら、また、学習規律や学習習慣・読書習慣と連携させながら、体験的な学習を「確かな学力」の定着にむけての有力な手だてとしたい。

4 研究内容

(1) 授業づくりについて 研究仮説について

教科学習・総合的な学習において、体験的な学習を取り入れ、工夫して指導していくことで、学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる「確かな学力」を育むことができるだろう。

(2) 学習環境づくりについて

授業の基となる基礎学力の定着や学習基盤の確立に向けて、学校・家庭の連携と発達段階に応じた取り組みを研究し、実践を図る。

(3) 具体的内容

「体験的な学習と指導の工夫」について理論研究
体験的な学習の特質を生かした授業実践
学習規律や学習習慣の定着について、共通確認と実践

年 間 校 内 研 修 計 画

研究主任 清水 利子

	研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
4月	研究主題・内容・計画		研究主任			
5月	理論研究		研究主任			
6月	授業案作成		研究主任 全 員			
7月	授業研究					
8月	指導計画・授業案作成					
9月	授業案作成・検討					
10月	授業研究・指導案検討			学年	10月 日	
11月	授業研究			学年	11月 日	
12月	授業研究まとめ					
1月	各学年の実践発表					
2月	授業の検証 本年度の成果と課題					
3月	来年度の構想 紀要の作成					

